すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報

第269号
2020年3月

一般社団法人
大学女性協会

JAPANESE ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

Photo by Irene Gashu

特集　2020年度全国総会ご案内・新春のつどい「国内奨学金贈呈式」

会長挨拶「困難は乗り越えるもの」…… 2
総会担当・愛知支部より

2020年度全国総会・定時会員総会ご案内…… 3

新春のつどい・国内奨学金贈呈式…… 4

奨学生による研究概要と将来の抱負…… 5〜7

各委員会報告〜社会福祉、収益事業、…… 8〜10
調査・研究、文化交流、文化事業、生涯学習

緒方貞子さんを偲ぶ…… 11

守田科学研究奨励賞贈呈式ご案内、催事のお知らせ … 12
創立70周年記念募金達成御礼、
新入会員、理事会より

「困難は乗り越えるもの」

会　長　鷲見八重子

2020年、新しい年を迎えました。皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年を振り返りますと、驚くこと、心が痛むことの多い年でした。春には令和となり祝祭ムードに湧きましたが、秋には、いくつも大きな台風に見舞われ、政治の不祥事が相次ぎ、東アジアの情勢もきわめて不安定な状況となり、世界の政治・社会の混迷が深まっています。

しかし、私たちJAUWは志を高くもち、一年の事業計画を粛々と行い、実りの多い年でありました。まず、GWIの100周年記念ジュネーブ大会は、全国支部から32名の参加を得、ワークショップや学際セミナー等において有意義な成果を上げることができました。

また、ヌエックにおける恒例の全国セミナーも20名を超える一般参加者があり、上野千鶴子氏の基調講演はもとより多くの支部や委員会の協力により「教育・ジェンダー・共生」のテーマのもと「あらゆるハラスメントを乗り越えるために」さまざまな角度から学び、話し合い、これから私たちが取り組むべき課題が見えてきたように思います。

さらに、本部委員会と支部協働の事業の一環として奈良支部と大分支部を訪問、留学生との文化交流と楽しい語らいの時を持てたことに感謝しております。

さて、新年度は、移行法人としての公益目的実施事業が9年目になります。8年後に予定される移行修了時を見すえて長中期計画を本格化する時期にさしかかりました。さらに、移行後の新しい事業についても活発な議論と実践が待たれます。

よろこばしいことに、2016年11月に始まった創立70周年記念募金は、2020年1月、目標額の1000万円を達成しました。正会員、賛助会員のほかに一般の方からのご寄付も含め、延べにして600名以上の方々がJAUWの目標に賛同し、その事業を良しとされた果実であると言えましょう。皆さまのご支援・ご協力に理事・監事一同、心から厚く御礼を申し上げます。

きたる5月24日（日）第9回定時会員総会において、IFUWからGWIへの名称変更に伴う定款変更が予定されています。理事会としましては、GWI(Graduate Women International)の日本語訳をいかにすべきかについて慎重に議論を重ね、「大卒女性インターナショナル」とする案を総会に諮ることを全員一致で承認しました。正会員の三分の二以上の賛成が必要な議案であり、多くの会員の皆さまの総会参加あるいは議決権行使書の返送をお願いする次第です。

去る10月に召された緒方貞子さんは大学婦人協会の会員でした。1974年に東京・京都で開催された国際大学女性連盟第18回国際会議の折には、セミナーの分科会「婦人団体―目的と機能、今日および明日」のグループリーダーを務め、報告書の中でこう結ばれています。

「大学婦人協会としてはあらゆる分野に活動の場を広げるより、本来の活動分野である教育の面にとくに努力を集中することが賢明ではなかろうか。後進の教育のみならず、学業を終えた婦人層に生涯学習の場を提供していくことはもっとも重要な使命の一つであろう。」

数々の困難な状況に直面しながらも「困難は乗り越えるもの」と、一筋の道をまっとうされた緒方さんの言葉を胸に刻み、一歩でも前進の年となりますよう力を合わせてまいりましょう。

愛知へようこそ！

2020年総会担当愛知支部長　**妹尾瑤子**

2020年度の本部総会を愛知支部が引き受けることとなり、皆様をお迎えする準備をしています。会場は、日本私立学校振興・共済事業団経営の「ホテル名古屋ガーデンパレス」です。名古屋駅からは地下鉄東山線に乗り、栄（さかえ）下車徒歩5分、合計20分ほどでしょう。中部国際空港（セントレア）、県営名古屋空港よりはバスをご利用になると便利です。「錦通本町」下車徒歩3分。セントレアから60分、名古屋空港から20分の乗車時間です。周りにホテルは多くありますが、名古屋ガーデンパレスに宿泊御希望の方は、JAUW総会参加とお伝えください。宿泊費が2割引きとなります。1日目は支部長会と懇親会、懇親会では歌と話題の「名古屋めし」を味わってください。2日目、総会･昼食後は青山桂子愛知県副知事に「女性が輝く未来に向けて―愛知の取り組み―」をテーマに講演をしていただきます。パネルディスカッションをティータイム後に。3日目は研修旅行、県内の国宝「犬山城」、明治期の著名な建物の野外博物館「明治村」を訪ねます。愛知支部会員一同お待ちいたしております。

ともに考え、女性が報われる社会の実現に向けて、ともに歩んでいきましょう。

2020年度全国総会・第9回定時会員総会ご案内

2020年5月23日(土)～24日(日)

2020年度全国総会を愛知支部がお引き受けし、名古屋にて開催いたします。

1. 全国総会日程　会場　ホテル名古屋ガーデンパレス

5月23日（土）支部長会＆懇親会

【支部長会】14：00～17：00（2階　桜の間）

【懇 親 会】18：00～20：00（3階　栄の間）

＊歌と名古屋めしをお楽しみください

5月24日（日）総会

【総　　会】9：30～16：30（3階　栄の間）

午前　9：30～12：00　定時総会

【昼食】その後、新役員紹介、分掌等報告

午後　13：30～14：30　公開講演会

講師　愛知県副知事　青山桂子氏

演題「女性が輝く未来をめざして

—愛知の取り組み—」

休憩・お茶の後、パネルディスカッション

5月25日（月）研修旅行

40名を予定しています。

国宝犬山城、博物館明治村を訪ねます。

昼食は特選飛騨牛鍋をご賞味ください。

8：15出発17：00名古屋駅到着予定です。

2. 参加費

懇親会参加費　8000円

総会参加費　3000円

昼食・飲物　3000円

研修旅行費　8000円

3. 会場・宿泊

ホテル名古屋ガーデンパレス

〒460-0003　名古屋市中区錦3-11-13

電話　052-957-1022

＊宿泊申込みの際に必ずJAUW総会参加とお伝えください。宿泊代金が2割引きとなります。

＊＊近くのホテル紹介

東京第1ホテル錦　052-955-1001

三交イン名古屋錦　052-957-3537

東横INN名古屋錦　052-953-1045 ほか多数あります。

4. 申し込み方法

①別送で案内と共にお送りする「支部提出用」申込書に必要事項を記入し支部長へ提出してください。支部長は出席者を取りまとめ、「支部出席まとめ用紙」にご記入のうえ、**4月1日（水）までに、**愛知支部支部長妹尾までお送りください。

②参加費（総会費、懇親会費、昼食飲物費、研修旅行費）の送金は**4月10日（金）までに、**同封の振込用紙にて次に記す口座に振り込みください。

通信欄に必ず支部名、参加項目をご記入ください。

ゆうちょ銀行　口座記号番号　00890-2-3587 加入者名　一般社団法人　大学女性協会愛知支部

③参加のキャンセルは**4月30日（木）までに**お願いします。ただし総会参加費3000円は日時、理由の如何に関わらず返金できません。

5. ご不明な点等のお問い合わせ先

愛知支部長 妹尾瑤子までお願いいたします。

【連絡先】

会報とは別に送られる総会案内に

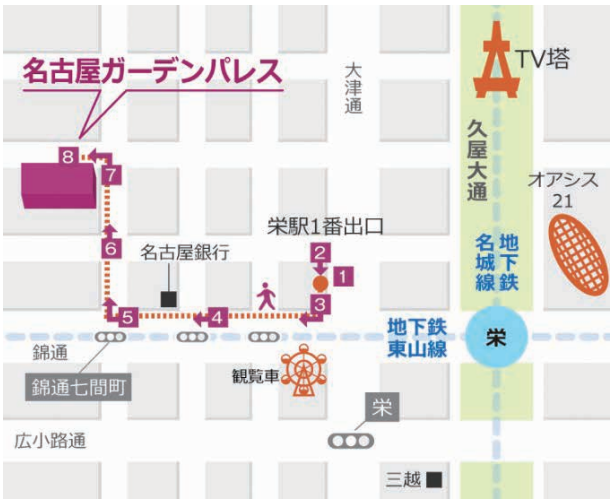
電話番号等が記載してあります。

そちらでご確認をお願いします。

6. 交通のご案内

名古屋駅より地下鉄東山線、藤が丘方面行に乗車、2つ目「栄」駅下車、1番出口より西へ徒歩5分。

【アクセスマップ】



会員の皆様へのお願い

4月27日「第9回定時会員総会開催通知」を「議決権行使書」とともに正会員の皆様に発送いたします。開催通知には予算及び決算報告、各議案が同封されていますのでご覧ください。今回の定時会員総会は定款変更がある重要な総会です。そこで正会員の皆様には万障お繰り合わせの上、ご出席をお願いいたします。欠席の場合は**「議決権行使書」にご記入いただき、署名、捺印の上、5月11日（月）必着で**ご返送ください。

JAUW 新春のつどい　国内奨学金贈呈式

2020年1月11日　京王プラザホテル　錦の間にて

第72回　一般奨学生・第29回　安井医学奨学生選考にあたって

国内奨学委員長　**秋光　正子**

大学女性協会国内奨学金は、一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金の3部門からなり、一般奨学生と社会福祉奨学生の中から、女性、教育、国際関係分野の研究を行う学生1名をホームズ奨学生に選んでいます。今年度は6月初旬合計236大学へ募集書類を発送し同時にホームページからも募集を開始しました。募集は8月末日締め切られ、全応募者数は65名でした。一般奨学生への応募は52名でしたが各支部で一次選考を行い、本選考には一般奨学生29名、安井医学奨学生7名が残りました。本選考は10月27日鷲見会長、窪田奨学担当理事ご出席のもと、国内奨学委員14名によって厳正に行われました。その結果ホームズ奨学生として出町未央さん、一般奨学生として紀本夏実さん、五味玲子さん、今野安里紗さん、中村舞さん、矢澤明喜子さん、安井医学奨学生として中村真理さんが候補者として選ばれ、11月2日の理事会において正式に承認されました。

本選考では、応募学生の研究内容や研究への姿勢、将来への発展性、外への発信能力、また女性としての特有な課題に挑まれているところにも視点が置かれ、委員間で活発な議論が交わされた後の決定でした。まさに大学女性協会ならではの奨学生の選考であったと思います。奨学生の皆様にはこれからのますますのご発展を、そして将来闊達な女性リーダーとしての役割を果たして下さることを期待しております。

改めてこの国内奨学事業にご尽力、ご協力賜りました全国の支部の方々、関係理事の方々に心より感謝申し上げます。

第48回　社会福祉奨学生選考にあたって

社会福祉委員長　**桑折　美子**

今年度の募集には、学部生6名の応募をいただきました。応募者全員が学部生であり、今後さらに研究を深めていかれる段階ではありますが、タイムリーで重要度の高いテーマが多く見うけられました。10月15日に牧島、加納両副会長出席のもとに選考委員会を開催。公正かつ厳正な審議の結果、3名の候補者を選出し、11月2日の理事会承認を経て本年度の社会福祉奨学生に決定いたしました。

相場咲希さんは、これまで障害者に対して理解のある地域で生活してこられたという貴重な経験を踏まえ、障害者が当たり前に受け入れられる地域共生社会の実現、社会福祉の普遍化について取り組まれています。藤原奈津子さんは中途視覚障害のために職を辞されましたが、看護師としての長年の経験から、またご自身の障害を通して、医療と福祉の連携について再び現場に立つ目的のために学び直されています。松岡琴乃さんは院内学級での経験を生かし、難病を抱える子どもたちの気持ちに寄り添いながら教員の立場で支えるために、特に音楽療法の分野を研究の方向として日々研鑽を積まれています。

このように、障害を抱えながらも、そのことに向き合い、様々な経験を糧に、より豊かな社会の実現に向けて明確な問題意識と目標を持ち学びに邁進されている奨学生の方々が、今後各分野で活躍されることを期待しております。

新春のつどいに参加して

京都支部　**髙橋　侑子**

2019年度の社会福祉奨学生に京都から採用された車椅子の相場さんが1月11日の東京での奨学金贈与式に出席されるとの連絡をいただき、彼女の熱意を受けて、私も応援に出かけることにいたしました。

案内では第1部は奨学金贈与式、2部は懇親会、会場の京王プラザホテルは華やかに準備されていました。東京の53名に各支部からの参加者を加えて91名の出席でした。第1部は先ず鷲見会長の挨拶から始まり、昨年の活動の展開を丁寧に話され、次に今回出席の7名の奨学生の研究発表が続きました。皆さん堂々の発表で、とても頼もしく感じ、新年早々とてもアカデミックな気分を味わいました。参加者の中で、唯一の学部生の相場さんも立派にご自分の目指す方向を話されました。欠席の方たちから届いていたメッセージも読み上げられました。

社会福祉委員会と相場さん、髙橋会員（前列左から3人目）

第2部は指名により、思いがけず私の乾杯の発声から始まり、壇上からではありましたが新年らしく明るく生き生きとした皆さんとの出会いが出来ました。その後各支部からの参加者の紹介、福引、バザーと和やかな雰囲気で終了しました。

研究概要と将来の抱負

ホームズ奨学生

世紀転換期におけるヨーロッパ新興国の対外的認知プロセス
―フィンランドの1900年パリ万博参加を例に―

津田塾大学大学院　国際関係学研究科
後期博士課程3年

出町未央

本研究は、フィンランドの独立前史として19世紀末から20世紀にかけての世紀転換期をあつかい、文化活動がどのように政治的、または社会的にヨーロッパ国際関係に対して意味を持ったかを考察する。ロシア帝国下にあったフィンランドではロシアによって自治の権限が縮小されるなかで、憲法を根拠に国内外に対して自らの自治の正当性を訴え、抵抗する動き（護憲派）があった。自らが独立に足る国家としての自律性を持っていることを説得するためには社会的な成熟度と同時に文化的な成熟をも諸外国に示す必要があり、法学関係の国際会議並びに、欧州の要人・市民が集まった過去最大規模の1900年パリ万国博覧会への参加が諸外国のフィンランド認識を広げる契機となった。他のロシア支配下の国が展示館を持てなかった中でフィンランドは独立した展示館を得たが、万博は、独自の外交権をもたないフィンランドが自国の情報を直に発信する貴重な機会であった。研究では、フィンランドの個人アーカイブ史料やフランスの外交文書を用い、万博参加にむけ奔走したフィンランド知識人が個々のネットワークを通じてフランスやロシアを説得したその民間外交の論理・内容、同時代の法学者との学術的交流により社会制度の評価を高めた過程を検討している。

将来はフィンランドの独立前史について研究を重ねるとともに、次の世代を教育・研究の場でサポートしていけるよう研鑽していきたい。

一般奨学生

医用画像の物理的定量解析を実現するX線イメージング検出器の開発

金沢大学大学院　医薬保健学総合研究科
博士後期課程2年

紀本夏実

私は医療のX線画像診断において、被写体の情報を定量的に評価できる画像を生成し、診断能の飛躍的な向上を目指した研究を行っています。現代の医療において主要な役割を担うX線検査では、医師の解剖学的な知識や経験に基づいた定性的な診断が主流です。この診断は多くの成功を収めていますが、画像濃度の似ている物質を医師の目では識別できないなどの限界があります。私は画像を生成する過程の物理を明らかにした解析により、医用画像に物理学的な知見（組織の原子番号や密度）を付加し、定量的な画像診断への革新を図りたいと考えています。物理的な解析を可能にするためには、画像を形成するX線のエネルギー情報を利用することが必須です。X線のエネルギーを識別できる次世代型のX線検出器を活用し、検出器が出力する信号を独自のアルゴリズムで解析することで、被写体の物理情報を導きます。私は学部3年次から本研究を主体的に行い、最近では試作機に提案アルゴリズムを適用することで、定量化画像の生成に成功しました。臨床応用には様々なハードルが存在しますが、一つ一つの課題を着実に解決し、ロバストなシステムの開発を行いたいと思っています。

本研究の最終目標である検出器の医療応用を達成するには、放射線物理学、医学などの様々な分野の深い専門性とそれらをまとめ、最適解を導く力が重要であることを学びました。本研究を基盤に総合力を身に着け、医療技術の発展に貢献できる人材になれるように日々精進していきます。

三井越後屋の経営・組織と伊勢信仰

千葉大学大学院　人文社会科学研究科
博士後期課程3年

五味玲子

本研究は、近世大規模商家での「信仰」のあり方を検討し、商家で行なわれた信仰活動の経営的意義について考察するものです。近世日本における代表的大規模商家：三井越後屋を分析対象としています。

近世社会において「信仰」は人びとの営みにとって不可分の存在でした。本研究は商家の経営においても「信仰」が重要な機能を果たしていたという仮説をもとに三井越後屋の経営・組織を検討します。「信仰」という新たな観点から近世商業の組織・経営ネットワークを改めて捉え直していくものです。具体的には三井越後屋の伊勢信仰を分析しています。彼らが行っていた伊勢講や伊勢参詣の様相を明らかにし、彼らの経営や組織運営にとってそれら活動がどのような意義を持っていたのか考察することを目指します。

これまでの近世商家経営研究は数量分析を中心に行われてきました。よって「信仰」という新たな観点から商家経営・組織を検討する本研究の成果は、近世商家経営研究に新たな知見と新しい方法論を提示する研究になると確信しております。

私自身の夢は、歴史学研究者として「社会」「地域」に貢献できる人材になることです。私が専攻する歴史学の知識や専門技術は、地域振興や生涯学習などの場で広く活かせるものです。現在は自身の研究を進めるとともに、自治体史の調査や編集作業、災害にあった資料の救済活動などにも参加し、技術の研鑽を積んでいる最中です。これからも努力を重ねて夢をぜひ叶えたいと考えております。

マリー・ンディアイ文学にみる現代女性の自己表象

筑波大学大学院　人文社会科学研究科
一貫制博士課程四年次
今野安里紗

フランスの作家マリー・ンディアイの作品は、人種の多様化と家族形態の変容に揺れる現代社会の中での女性の自己模索を主題とする。先行論が母親像の分析に集中していたのに対し、私が対象とするのは、年齢や社会的立場に関わらず、娘（fille）と自称し、少女（fille）のイメージで自分を語る女性像である。その際、近代児童文学にみられる少女の規範的な成長を描いた旅物語を批判的に模倣する作家の手法に注目し、日仏で前例のない現代文学までの旅する娘･少女の表象史を新たに打ち立てつつ、現代女性にとっての成熟とは何かという問題系から作家の女性像の文学･文化史的意義を明らかにする。さらに、彼女の作品野別の主題･混血表象との関わりから「娘」像を読み解くことで、現代の女性、ひいては個人が、多層化する自己をどのように受け止めて表現し、共同体と関わっていくことができるのか、その可能性と方法を提示したい。日本では先行研究に乏しい作家だが、黒人との混血でフランスの文化のみで育った彼女の文学を紹介することは、フランス語文学研究の枠を超えて、同様に国際化を辿る日本の文学、社会の再考に寄与すると共に、日中の混血である私を含め、自己の問題を抱える人々の助けになると信じている。

博士課程終了後は、まだ日本では蓄積の少ない仏語現代文学と児童文学、英米の研究と比較して数の少ない仏語圏の社会学研究の普及に努めながら、大学の内外を問わず、ダイバーシティの推進活動にも直接的に取り組みたい。

黎明期の近代製鉄により製造された鉄鋼材の材質と保存に関する研究

東京藝術大学大学院　美術研究科
文化財保存学専攻　博士後期課程1年
中村　舞

製鉄技術は明治期以降に、砂鉄を原材料とするたたら製鉄から、鉄鉱石を原材料とする近代製鉄へと変化した。近代製鉄は、幕末期に欧米から輸入された技術であり、革新されながら現代の製鉄技術に続いている。明治期に製造された鉄鋼材は、橋梁の建設や鉄道整備などの近代化事業に利用されたが、当時の製鉄技術はまだ黎明期にあったため、それら鉄構造物の材料学的特性は一定していなかった。近年では、明治期以降の鉄構造物に対しても、近代化・産業化遺産として保存する機運が高まっている。しかしながら、このような鉄構造物の保存方法や修理方法については確立していない。

本研究では、黎明期の近代製鉄により製造された鉄構造物の保存に向けて、材料学的な基礎研究を行う。具体的には、現代と明治期の製鉄技術で製造された試料をそれぞれ比較分析し、非金属介在物の組成や腐食状態について確認する。また、明治期の鉄鋼材の腐食生成物を同定し、組成の差が腐食に与える影響を検討することで、腐食機構の特徴を解明して今後の適切な保存方法の検討に繋げる。

将来は、修士・博士課程を通じて得られた知識と経験を活かし、鉄鋼材を含めた近代の文化財を後世に残すための保存技術について研究していきたいと考えている。

キルヒホッフ多項式のヘッセ行列の固有値について

信州大学大学院　総合医理工学研究科
博士課程1年
矢澤明喜子

私は工学的問題（例えば路線図や電気回路など）を抽象化した「グラフ」と呼ばれるものを中心に研究をしています。特に電気回路と関係の深いキルヒホッフ多項式と呼ばれる多項式について研究を行っています。本研究は、キルヒホッフ多項式のヘッセ行列についてその固有値や正則性について考察し、与えられたグラフの構造や組合せ論的性質を明らかにするという研究です。

キルヒホッフ多項式はグラフから定義されます。具体的にはグラフの全域部分木の母関数で定義されます。グラフの全域部分木に成り立つ性質を一般化したものを「マトロイド」と呼びます。1970年頃にマトロイド上の予想「Mason's Conjecture」が提唱されましたが、最近、代数幾何学や対数凹関数の理論などが用いられその予想が解決されました。本研究は上記の代数幾何学や対数凹関数の理論と近い分野の研究で、グラフ（より一般にマトロイド）から構成される空間の構造を研究しています。

上で述べたとおり、グラフは工学的問題などを抽象化したものです。また、社会のネットワークや人間関係などもグラフを使って表すことができます。このように、グラフは応用上重要な対象です。現在は、純粋数学としてグラフ理論の基礎を中心に研究を行っていますが、将来的には、応用数学としての研究も進め、実生活に貢献をもたらしたいと考えています。

安井医学奨学生

患者由来iPS細胞を用いた認知症モデルの作出及び病態解析

東京大学大学院　医学系研究科
博士課程3年
中村真理

世界的な高齢化が進む中、老化に伴って発症する認知症の患者数の増加は大きな課題となりつつある。しかしながら、未だに認知症に対する予防法及び根本的治療法がないのが現状である。その理由の一つとして、患者の病態を忠実に再現できる疾患モデルの欠如が挙げられる。そこで、私は認知症患者由来 iPS 細胞から誘導した神経細胞を用いた病態モデルの構築及び病態メカニズムの解析を試みた。

本研究では、アルツハイマー病（AD）を含む多くの認知症の主要病変であるタウ蛋白質に注目し、タウの認知症発症・進行における役割の解明、またその解析に役立つ病態モデルの作出を目的とした。具体的には、AD型認知症を引き起こすとされるタウ遺伝子上の R406W 変異に焦点を当て、この変異を持つ患者から iPS 細胞を樹立し、神経細胞

へと誘導した。患者由来神経細胞において、タウのリン酸化及び断片化の異常が検出され、これらの変化を引き金に、神経突起の変性及びミトコンドリア輸送の障害が起きることを見出した。以上の結果より、認知症の初期症状となる異常がiPS細胞モデルにおいて再現されたと考えられる。

認知症を含めた難病の克服のためには、基礎研究による疾患の原因究明が必要不可欠だと直に感じている。そこで、iPS細胞技術等の最先端技術を駆使することによって、画期的な創薬や治療法の開発を実現できると考える。将来は、治療法がなく苦しんでいる患者のために研究を行い、より多くの患者に貢献できるような研究者を目指したい。

社会福祉奨学生

障害者が当たり前に受け入れられる地域づくりについて

龍谷大学　社会学部
現代福祉学科3年
相場咲希

私は、社会福祉学について学んでいます。特に、地域福祉を専門的に学んでいます。市町村の現状や市町村における様々な取り組みを学び、地域の課題について考察しています。地域福祉を専攻した理由は、どんな人も地域で生活してこそ、その人らしい生活が送ることができると考えているからです。障害者が地域で受け入れられるようになるためにはまず、地域住民同士で支えあうという意識や体制づくりが必要であると考えます。これは、私の経験から感じたことです。私は、小学校から高校まで地域の学校に通って来ました。そこで出会った友人や先生方のおかげで、部活動や友人と電車で出かけるなど色々な経験をすることができました。このような経験は、障害者に対して理解のある地域で生活していたからできたことだと思います。

私は、これから実際に地域に出向いて、地域の障害者に対する意識の現状を把握したいと考えます。さらに、現在NPO等で行っている取り組みについても取材したいと思います。それらを踏まえて、考察を深める予定です。また、社会福祉士の資格の取得も目指しています。これから大学を卒業し、地域で生活しながら専門職として地域のつながりをつくるための仕事をしたいです。研究の結果を踏まえた実践を行うことで障害者が当たり前に受け入れられる地域づくりを実現したいです。また、私の経験や思いを多くの障害を持つ人に伝えることで障害を持つ人自身の意識を変えていければと思います。

大学生活で学びたいこと

盲導犬ジェルダとともに

神戸女子大学　健康福祉学部
社会福祉学科3年
藤原奈津子

私は、大学入学以前は小児科の看護師として勤務しており、病気や障害を持ちながら地域で生活する子どもたちの在宅移行支援に取り組んでいた。病気や障害を持ちながら地域で生活するためには、家族だけではなく多くの人の支援が必要であり、様々な社会資源を活用しながら生活を送る必要がある。そのため、医療と福祉が連携して支援を行っていくことが必要であるが、なかなか連携がうまくいかないという現状があった。もっと福祉について学び、お互いの専門性を理解してかかわる必要があるのではないかと感じていた。それくらい、福祉の持つ力は大きいものであり、大切なものであると感じていた。

また、自分自身が視覚障害者になり、仕事が続けられなくなった時にも福祉の力の大きさを感じた。大好きであった看護師の仕事を続けられなくなり、もう自分には何もできないのではないかと不安いっぱいであった私を助けてくれたのもまた、周囲の人の支援とたくさんの福祉制度であった。多くの支えのおかげで少しずつ自信を取り戻すことができ、次は自分が誰かの支えになりたいと思えるようになった。そこで、以前から興味があり、私を支えてくれた福祉について学ぼうと思い、大学へ入学した。

大学における社会福祉の専門科目の勉強はとても楽しく、学びの多いものである。制度がどのようにできたのかを知り、自分の生活がたくさんの人に支えられているということを改めて実感している。今の生活に感謝して、残りの学生生活でも、福祉制度や、支援者、利用者などたくさんの人の思いについてしっかりと学んでいきたいと思う。

病気の子どもの理解と楽しい授業づくりを目指して

明治学院大学　心理学部
教育発達学科3年
松岡琴乃

私が所属する心理学部教育発達学科では、心理学・教育学・障害科学の3分野を学ぶことができます。大学卒業後は、大学院への進学を視野に入れておりますが、現在取得を目指している小学校教員免許と特別支援学校教員免許を活用し、長期入院中の子どもや療養の必要な子どもの教育（病弱教育）に教員という立場で携わっていくことが最終目標です。

私が研究している病弱教育においては、例えば病気の治療のために長期にわたる入院が必要となった子どもが、院内学級へ転校するとします。そこに通う子どもたちは、病気になる前に通学していた学校での生活との違いに戸惑い、病気に対する不安を抱え、家族や友人と会えない寂しさを感じるなど心理的ストレスを抱えています。私はこうした子どもたちに対し、学校という場を通じて、子どもの心を理解し、深刻な状況に置かれていても一人ひとりの子どもが何か目標を持って前向きに生きていくために、院内学級の教員に求められることは何か、どのような授業づくりが必要となるかについて、3分野それぞれの角度から追及しています。ゼミでは音楽教育や音楽心理学を扱っており、音楽教育の意義や可能性と、音楽療法という観点から、病気の子どもたちの支援・指導のあり方を検討しています。こうした大学での学びを生かし、一人ひとりの子どもの気持ちを大切にしつつ、子どもたちが生きる喜びを感じられるような授業を行う教員になりたいと思っています。

筑波技術大学見学会・交流会報告

社会福祉委員長　**桑折美子**

産業技術学部にて

社会福祉委員会は、人権問題に関心の高い茨城支部との共催により、2019年11月14日、聴覚・視覚障害者のための高等教育機関である国立大学法人筑波技術大学産業技術学部（聴覚障害系）及び保健科学部（視覚障害系）を見学した。

委員会では、昨年度より「バリアフリー推進の実態をまず知ることから始めよう」と、奨学生の協力を得て講演会や大学構内の見学会を実施し、資料集を基に全国の大学における障害学生支援体制についての比較検討を続けてきている。

今回の見学プログラムに組み入れた交流会でも、2013年度社会福祉奨学生の小林洋子氏（現筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター講師）と、2018年度奨学生の加藤優氏（同大学院修士課程修了。現在上智大学大学院理工学研究科博士後期課程1年）に、教員と学生の視点で、この大学の特徴や研究テーマに沿った現在の取り組みなどを話していただき、バリアフリーについて考える貴重な機会を得られた。

ここでは、少人数クラス編成や個別対応に加え、障害特性に応じた指導が行われている。聴覚障害学生への手話、パソコン要約筆記、遠隔情報保障システムによる授業、視覚障害学生への点字・拡大・録音版教科書の提供、理数系点訳・点図システムの導入、非常時の音や光による警報などの情報アクセシビリティに目を見張る思いであった。一方で、共生社会への実現が進んできているとはいえ、一般社会との格差に対し、学生が社会に出た後そのギャップをどのように克服しているのかが気になった。

しかし、交流会での小林先生の広い視野や指導姿勢、加藤さんの「企業への就職時や他学入学時に、情報保障が当時ゼロで驚いたが、これを変えていくには、この大学で必要な支援を学んだ自分でするしかない」とユーモアを交えた力強い話に、「情報保障＝情報を知る権利」を社会に発信していくのは、障害者自身であると同時に、微力ではあるが今回の見学会を通して知った私たちでもあるという思いを強くした。

最後に、見学会並びに交流会を受け入れていただいた筑波技術大学の教職員の方々並びに元奨学生お二人の手厚い配慮に、深く感謝したい。

交流会で手話を交えて語る小林洋子先生（左）と加藤優さん

アジア学院訪問記

収益事業委員会　**植松ちどり**

2018年の大学女性協会のシンポジウムでお話しされた、アジア学院の荒川朋子先生を訪ねて那須塩原駅前に降り立ったのは、翌2019年10月29日の雨の中でした。学院広報の八木沢淳さんのお出迎えで私たち9人は無事、学院に着き、学院の成り立ちと現在の様子をお伺いしました。

シンポジウムでのお話から想像していた学院と、実際に目にした景色とは大きく違い、学院で指導している農業は、はるかに原始的で基本的なものでした。それは、留学生それぞれの国の状況や状態にあった方法で、機械や道具を選ばず、地元にあるもので農作物を作るための基本知識、技術を習得してもらうことが目的だから、というお話でした。

民家のような静かな礼拝堂での荒川先生のお話は、ここには書き尽くせない、興味あるお話でしたが、私の心に深く残ったお話は、アジア学院を開いた高見敏弘牧師の学院を開くまでの経緯でした。先生の生い立ちはとても貧しく、幼いころは禅寺に預けられ、その後様々な仕事を経て、たまたま電車の中の隣の乗客が読んでいた新聞に、米国人宣教師のコック兼手伝いの募集広告を見たことが、すべての始まりだったというお話でした。この（たまたま）の、この事実が無いと今は無いかもしれない、と。そこに、なにかの、大きな指示、（SOME DIRECTION とでも言いますか）を感じざるを得ないのは、私だけでしょうか？

学院は自給自足が基本となっているそうで、畑には学生たちが作った野菜があり、沢山の鶏が卵を産み、ヤギを育て、そこから必要な分だけを感謝していただく事が毎日の食生活の中で行われていました。私たちがいただいたお昼のカレーライスもヤギのお肉で、一年に一頭だけ食肉にされると伺い、日ごろの我が家の食生活に一石投じられた思いがした次第です。

最後に院内の畑や農業指導の小屋、鶏舎、家畜小屋を見学しました。突然迷いこんできたかのような私たちを珍しそうに寄ってきた、鶏たちや赤い首輪が可愛いヤギさんの無事と長生きを祈りながら、まだ雨の降るアジア学院を後にしました。敬虔な信仰とそれに基づいた生活理念を拝見して、自分の日ごろの放漫な生活態度に改めて気がつき、反省しきりの一日となりました。

荒川朋子校長（右から三人目）を囲んで

全国フェミニスト議員連盟の研修会で調査報告

調査・研究委員会委員長　**勝又幸子**

新年早々でしたが、全国フェミニスト議員連盟からの依頼をいただき、第9回女性議員パワーアップ集中講座（1月14日）で報告してきました。調査・研究委員会が2019年度に14支部から協力を得て実施した「外国にルーツのある住民と多文化共生の取組についての調査～保護者と子どもの教育問題をめぐって～」の報告です。講座は午前中に海外につながる子どもの支援、午後には母子家庭など貧困家庭の居住支援をテーマにしていました。

私の報告内容は2019年10月の全国セミナーでの中間報告に加えて、この機会をとらえてJAUWの活動の紹介をしました。そして、現在会員中に11名の議員（国会議員3名、県議会議員3名、市議会議員4名）と1名の市長がいることも紹介しました。

参加した地方議員からは、子育て相談会を地域で開いても外国人の参加者があったことがないなど、地域で外国にルーツをもつ住民と繋がることの難しさについて発言がありました。また、ある都議会議員からは都は住民からの質問に対してさまざまな施策や事業をやっていると回答していても、実際の取組は進んでいないので、行政の回答を鵜呑みにするのは危険だとのご意見もいただきました。日々議会で質問をすることで政策の推進に直接かかわっている議員のみなさんのご苦労が伝わってくるお話でした。

JAUWの調査・研究委員会の活動目的である政策提言活動の重要性を強調し、議員のみなさんと全国で協働していく機会があることを期待していると訴えました。今後、支部と地域の議員が協働していく基盤を調査・研究委員会が作っていくことも役割だと感じました。議員が支部会員にいるところでは、その議員がどのような政策を支援しているかについて、まず話を聞く機会を設けることから始め、法制定や推進で協働する機会をとらえて行動できるように備えておくことをお勧めします。

調査・研究委員会では2020年度も継続して、外国にルーツのある子どもの教育をテーマとして活動していく計画をたてています。会員個人としてのみならず支部としても、調査・研究委員会の事業にご参加いただき、自らが暮らす地域の政策によい影響が与えられるようにしていきましょう。

留学生との江戸の食についての学びと体験

文化交流委員長　**建部静代**

2019年11月23日、朝から氷雨降るうす暗い天気の中、会場の北の丸楠公レストハウスでは、一転して、イスラエル、韓国、台湾、中国、フランスからの留学生の若いパワーと熱気で明るく華やいでいた。

「和食」と呼ばれる日本の食事や料理の様式が整ったのは、江戸時代（1603～1868）といわれる。人口が集中する江戸では、生活するための様々な生活システムが発達した。

今回の企画は東京家政学院大学名誉教授・(一社) 和食文化国民会議顧問の江原絢子（えはらあやこ）先生に「和食」についての講演をお願いして、「学び」、実際に食して「体験する」というもの。先生は江戸時代のメニューのレシピも監修されている。

鷲見会長の挨拶に始まり、講演“ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」・その特徴と魅力”へとつづく。

留学生はじめ参加者全員、熱心にメモをとる。

資源の持続的利用と密接に関係している「自然への尊重」を基本にして、①多様な食材の利用、②食材を最大限に利用する知恵と技、③自然への感謝と祈りを込めた行事、行事食は地域・家族の絆を強める、④バランスのよい食事により、健康的な生活に寄与、⑤自然の美しさの表現（季節感を感じさせる、盛り付ける、食器等）

日本の自然環境が生み出される独自の食文化と海外から伝来した食文化を日本風にアレンジして日本の食文化に変えていく技、日本の軟水でとる、昆布や鰹節のだしから酒、酢、味醂、醤油、味噌などの発酵食品は健康の基本であり、「和食」とは包括的な社会慣習であること、等など。

次に安部憲昭総理長による、江戸料理の解説後、いよいよ「江戸エコ行楽重･与の重」の体験である。目に美しく、とてもおいしい。留学生の方々もみな完食した。使用した菊の紋入りの塗り箸はお土産として、持ち帰ることができるのもうれしい。

会場では撮影、国々の現状報告、熱心な質問、笑い声と賑やかしく、閉会後も、話はつきない。留学生からは翌日に感想文が寄せられた。

後日談として、参加した留学生蔡瑩臻（サイインヂエン）さんの東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展と博士論文の発表のご案内があり、委員会メンバーで出席した。その表現力のある大作と数点の作品、日本語で、発表された論文に新しい発見をみた。文化交流のネットワークがカタチになる瞬間でもあった。

12月コンサート
ピアノ＆ヴァイオリン ～ヨーロッパの香りを～

文化事業委員長　**佐々木澄子**

12月3日、前日の荒天と打ってかわる青空の下、けやきホールにてチューリッヒ在住のピアニスト長田雄資とロンドン在住のヴァイオリニスト山崎絢子を招いてのDuo Concertを開催した。

長田雄資はハノーファー音楽演劇大学非常勤講師、ルツェルン音楽院講師。山崎絢子はロンドンのオーケストラに所属、Cavendish School、Eaton Square Schoolヴァイオリン講師。

二人は偶然ヨーロッパでの知り合いであり、初めての共演であるが、快くJAUWのコンサート出演を引き受けてくれた。夏頃より何回も日本と現地とメールで連絡しあい、二人もロンドンで数回のリハーサルを繰り返し、11月末に来日した。連日のリハーサルを経て、いよいよ当日の演奏に臨んでくれた。

偶然38歳同士であり、ヨーロッパの音楽大学を出て活躍している二人に対し、来場者より「自分たちで頑張っている。そのこと自体に感動し応援したい」との声があった。

エルガーの「愛の挨拶」で始まった二人の演奏は軽やかで奥深く、「雨の歌」で有名なブラームスのヴァイオリンソナタ第1番ト長調は、用意された“演奏曲解説”（ブラームスが思慕するクララ・シューマンに捧げた等）でさらに感動を呼んだ。

圧巻は、長田雄資のベートーベンのピアノソナタ第21番「ヴァルドシュタイン」だった。来場者より「ベートーベンの再来！」「ピアノの天才」といった声が聞かれ、ヴェーゼンドルフのグランドピアノが壊れんばかりの熱演であった。カプースチンやシューマンのピアノ曲では彼の弾く鍵盤のタッチに無限大の可能性を感じさせた。

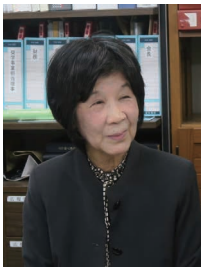
再び Duo でクライスラーの「愛の悲しみ」、モンティの「シャーダス」（英語･チャルダッシュ）が、“ヨーロッパの香りを”のタイトル通り、洗練された技巧で、豊かに聴衆の心を捉えた。

コンサートの後、長田雄資は12月6日、サントリーホールのブルーローズでピアノリサイタルを、山崎絢子は1月11日トッパンホールで英国王立音楽院出身者たちとのピアノ5重奏コンサートを開き、ヨーロッパでの活動に戻ったが、新しい年でのますますの活躍を期待したい。

文化事業委員会コンサートの純益は全て JAUW の活動資金となります。ご協力をお願いします
2020年度のコンサートは秋以降を予定しています

Ｊカフェ　第6回　2019年11月16日
幼な子を座標軸に見続けた人間の世界

講師：**江波諄子**（賛助会員）



50年前、保育学は社会の「すみっこ」にあった。高度経済成長期だが就職先は極めて地味で給料も他業種に比べて3分の2だった。だからこそ「子ども大好き」人間だけが集まり子どもの世界に感嘆していた。50年間子どもの世界を見続けると人間学そのものなのだと気づかされる。

私達は公教育の普及でみんな同じように育てられるのに、同じ人生を歩む人はいない。また「あの人のようになりたい」と願っても決してなれない。子ども時代に散りばめられた経験の中身をひもとくと、人は誰も全く同じ経験はしていない。「幼児期回想」研究がそれを教えてくれた。

拙著「場の保育論」を格調高く書いても目の前の子どもが幸せにならなくては意味がない。それが実学だ。エピソード記録を学びに繋げる。それがボトムアップ研究手法だ。

新聞等に掲載された著名人の子ども時代の経験から、子育てに欠かせない3つの要因、①自然②時間③地域と価値文化を導いた。誰もが同じような学習環境（学校や塾通い）をする現実に貴重な一石を投じる発見だった。入試に勝つ事がまずは子育ての目標であり、成功と思いがちな子育て世代に、長期的視点で且つ足元をしっかり地に着けた固有の生活を大事に生きることの大切さを教えてくれる。

さらに著名人達の幼児期エピソードを通して人生には、次のことが大切なのだと気づかされる。それらは①日々の暮らしの風景、②病から派生した諦めや謙虚さ、③学校や社会への不適応が豊かな世界を見つめる力、④幼い頃の感動や疑問、⑤親の人生、⑥身近な人々との何気ない人間的なふれあい、⑦親の判断で行われる早期教育・訓練、⑧周囲に垣間見る大人の生き方、⑨自分では選ぶことの出来ないアイデンティティーだ。だから日常の生活から目を離さないで足元の「宝の経験」を丁寧に拾い大切にしようと訴えたい。そして「あなたはあなたでいい。今のあなた自身の生活の中身を大切に」と叫ばざるを得ない。

保育学は、「人は非常に身近な細やかな場で生きる力を得ている」と伝えることだ。人生の荷はその人自身が背負わなければならないが、傍らで誰かが自分を見守っていてくれるだけで人は強くなれる。逆に誰からも関心を持たれなければ生きる力は急激に降下してしまうかもしれない。

一方現実の社会を見ると、保育学の無力さも感じる。長い間子ども達に「ウソはつかない・相手が嫌なことはしない・悪かったら心から謝る・相手の気持ちになる・共に生きる」等を教えてきたのに。今も混沌とした思いである。

（筆者は昭和44年度大学婦人協会留学渡航費受給生）

より詳しい報告は、JAUW HP の「J カフェ最新号」で

巨星墜つ　―　緒方貞子さんを偲ぶ

2019年10月22日没　享年92歳

Photo: UNHCR

緒方さんと私は大学で同窓とはなるが、先輩である緒方さんと学生時代を共にしてはいない。ただ4年次に、非常勤講師となった緒方先生から授業を受け、正しくは師弟の関係で緒方さんと出会った。その後、私自身教職に就き、緒方さんもアメリカ留学を終えて再び母校で非常勤講師を務められたため、緒方さんとは畏れ多くも同僚となった。それもあって、別の先輩同僚が緒方さんや須賀敦子さんをホームパーテイーに招かれた時、私もお相伴に預かっている。何故か私だけが桁外れの若造で、分不相応であった。

1970年、大学女性協会が初めての国際会議「日米合同セミナー」を大磯で開くに際し、会員であった聖心女子大学の三好学長が、緒方さん、中川徹子さん（元国内奨学委員長でのちの聖心女子大学学長）、そして私を協会に誘われ、この三人で「日米関係」の部会を担当することになった。当時、藤田たき、高野フミ、中村道子、中村ミチ氏など錚々たるメンバーがこのセミナー責任者であり、今思ってもこれまた畏れ多くも懐かしい企画委員会に連なった。実はこの日米合同セミナーと前後し、市川房枝氏の強い要望で、緒方さんは国連総会の第三委員会に派遣された（1968、70、75）。その後、緒方さんが国連代表部公使に、そして国連難民高等弁務官になられた経緯を思うと、この時期こそが緒方さんを国際社会に送り出した一つの大きな契機であった。

左より、中川さん、緒方さん、筆者

その後、私自身が大学女性協会の推薦で、1992、93年に国連総会に臨んだ時期に、緒方さんは二期目の難民高等弁務官に再選され、偶々私は緒方さんのUNHCRとしての総会報告を二年に亘って直接NYで聞くことになった。緒方さんは国連の各国代表の間で絶大な人気があり、スピーチが終わると握手を求める人が列を成すほどであった。なるほどと思える緒方さんのスピーチは明快で説得力があり、ことにUNHCRのヴィジョンは、1. 難民を出さないこと、2. 難民が出たら人道的救済にあたること、3. その難民を必ずや帰還させることの三点に尽きるのだと言い切られた。

1995年にはIFUW第25回総会が横浜で開かれ、私たちは緒方さんに基調講演をお願いした。それは今聞いても、何一つ的のズレルところなく、現代にも通じる名スピーチであった。だが、現代にも通じるということは、女性を軸とする人権問題がその後、著しくは進展を遂げていないことをも意味しよう。とすれば私たちは、今一度緒方さんの説かれる問題点を心に刻み、それを行動で果たして行かなければならない。さらにはそれを未来に繋げるという責務をも私たちは負っている。

青木怜子

Jカフェ番外編①　2020年1月13日　講師：倉科茉希

30歳！夢を叶えにベナンへ
～滞在4ヶ月で私が見たもの、聞いたこと～

JAUWの会員のネットワークの広さは驚くほどですが、今回は、「ベナン共和国」から一時帰国中の倉科茉季さん（鷲見会長の後輩）から未知の国の話をお聞きしました。

倉科さんは、津田塾大学大学院で英語教育をご専攻、発展途上国で英語教育をしたい、と志され、2019年7月、ベナン共和国に渡航なさいました。ベナンは、ナイジェリアの西隣の国で、気候も国民性も穏やか、公用語は、フランス語ですが、フランス語を理解できる人は、3割ほどとのこと。

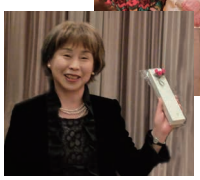
van Duyse Entrepreneurial Leadership Institute（通称VELI）という「学位があっても就職先がない」というベナンの現状を打破するために起業のノウハウを教えるビジネススクール（授業はすべて英語）でメンターとして活躍されています。 国の現状、スクールのこと、ルームメートのことなど楽しいお話や考えさせられるお話をたくさん伺いました。　（生涯学習委員長　嶋田君枝）

1月11日新春のつどいにて

愛知支部・
賀集イレーネ会員
GWI委員就任

福引きを引く中村前会長↓

当たり↓



会員拡大委員会と会長
長野支部訪問2月18日

国連NGO国内女性委員会主催
緒方貞子氏を偲ぶ会2月22日

第22回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式のご案内

第22回守田科学研究奨励賞の贈呈式および祝賀パーティーを開催いたします。多数ご出席いただきたくご案内申し上げます。

日　時　2020年6月7日（日）
　　贈呈式・授賞者講演　13時00分～14時30分
　　祝賀パーティー　14時40分～16時00分
場　所　アルカディア市ヶ谷（私学会館）
　　東京都千代田区九段北4-2-25
　　TEL　03-3261-9921
　　JR、東京メトロ、都営地下鉄「市ヶ谷駅」より徒歩3分
会　費　3000円　奮ってご参加ください。
申込先　（一社）大学女性協会事務室
　　TEL　03-3358-2882　　FAX　03-3358-2889

委員会からの報告

収益事業委員会　　**松﨑　和子**

委員会は現在、東京・神奈川・神戸・長崎支部の委員からなっています。目的は、皆様に喜んでいただける活動を通し、収益を上げることです。そして、参加して良かった、楽しかった、美味しかったと皆様に思っていただくことです。一緒に活動してくださる方、お待ちしています。

＜主な活動内容＞

①全国総会・東京支部総会・新春のつどい・全国セミナーやシンポジウムでのバザー。食品は美味しくて健康に良いものを仕入れ、衣料品は皆様を思い浮かべて楽しく買い付けをしています。そして、皆様からの寄贈品にはいつも感謝しています。商品は本部事務所でもお買い求めいただけます。委員会委員にお声をかけてください。

②歌舞伎・文楽・狂言・雅楽などの観劇会。いずれも人気の演目で、ときには舞台裏見学や解説付などの興味深い講演もあります。お友達も誘ってご参加ください。

③街歩き・大使館訪問・美術鑑賞・空港整備場見学など多岐にわたる催し物。じっくりと検討を重ね企画しています。不可欠なのは美味しいランチです。企画の下見ではグルメな委員の試食が必須です。

その他**「岩波ホール映画」・「丸大食品㈱」・「楽天」**でのご協力などご不明な点については、本部までファックスでお問い合わせください。**観劇会・催し物のお知らせ**はJAUWホームページをご覧ください。

なかなかお会いできない各支部の皆様。日頃のご協力に、この場を借りまして心より感謝を申し上げます。

お知らせ　収益事業委員会

＜歌舞伎＞

3月23日（月）歌舞伎　於国立小劇場　　12：00開演

・演目　「義経千本桜」二世竹田出雲　他作
　出演：尾上菊之助、中村鴈治郎、他
　1等　10,000円　　定員　15名

新入会員　理事会承認　2019年11月～2020年2月

新潟支部　打越さく良　東京支部　加藤　聖子　東京支部　菊地　康子
東京支部　宮原千佳子　神奈川支部　小渡　尚恵　奈良支部　志垣　瞳
岡山支部　原田満理子

創立70周年記念募金 お蔭様で1000万円を達成 報告とお知らせ

JAUW 会長　鷲見八重子

創立70周年記念募金は2020年1月をもって目標額1000万円を突破しました。まことにおめでとうございます！

2016年11月12日、グランドプリンスホテル新高輪にて70周年記念祝賀会を開催した際、「大学女性協会が新しい事業を携えて更なる社会貢献に寄与し、若い世代と共に、未来に開かれた80周年を迎える事ができますよう、皆様のご理解とご協力、ご支援を賜りたくよろしくお願いいたします」と呼びかけたのがついこの間のように想い起こされます。

実を申せば、目標期日の2019年3月には目標額に至らずどうしたものか多少懸念もしましたが、引き続きのお願いに皆様の熱意がさらに高まったようなペースで何度も寄付してくださる方が増え感謝は尽きませんでした。JAUWの目標と活動に対する皆様のご理解、ご支援に理事・監事一同、あらためて心から厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

副会長　牧島悠美子

創立70周年を記念して2016年11月に開始した記念募金活動は、会員の皆様方のご協力をいただき、今年度は募集期間を延長して実施しておりました。お蔭さまでこの度2020年1月31日現在で、延べ662人、1005万3313円となり、目標の1000万円を達成いたしました。これも偏に会員の皆様方のご協力のおかげと心より感謝申し上げております。今後の活動のためにはさらに資金が必要ですので、募金は継続したいと考えておりますが、その方法につきましては次期理事会に委ねたいと思っております。募金の口座はいつも開いておりますので、今後もご協力を!!!

会計報告および寄付者ご芳名

期間：2019年11月1日～2020年1月31日
寄付者延べ人数：56名、寄付金額：818,000円
（仙台支部）愛知絢子、菊地昌枝、三島明子　**（茨城支部）**梶塚幸子、牧島悠美子　**（東京支部）**江原孔江、香川せつ子、木村和子、窪田憲子、向後紀代美、桑折美子、佐々木澄子、庄司ヨシ、白井典子、高橋真理子、中山律子、西村篤子、端本和子、松村美枝子、三木妙子、望月浪江、山下泰子、劉瑛、鷲崎千春　**（神奈川支部）**鷲見八重子、中村礼子、房野桂、松比良節子　**（新潟支部）**高津恭子、田中和子、登坂美江子　**（長野支部）**徳田節子　**（愛知支部）**加藤いつみ　**（京都支部）**髙橋侑子、多田美智子、中島伸江、廣田輝子　**（神戸支部）**五十嵐かほる、宇野蓉子　**（奈良支部）**中道貞子、水上戴子　**（岡山支部）**江田京子、梶谷貴美子、木口京子、近藤みち子　**（長崎支部）**一瀬まり子、梅田和子、鈴木千鶴子、関きみ子　**（賛助会員）**磯部正昭、エトヴァス、江波諄子、小笠原今子、武田裕子　**（一般）**匿名

理事会から

- 5月の総会ではGWI名称変更に伴うJAUW定款変更を諮ります。議案の成立については正会員の3分の2の賛成が必要になります。議決権行使書は必ずお出しください。
- 新年度よりJAWW（日本女性監視機構）の担当を調査・研究から国際NW委員会へ移動いたします。

一般社団法人　大学女性協会
〒160－0017　東京都新宿区左門町11番地6－101
電　話　03－3358－2882　　ＦＡＸ　03－3358－2889
http://www.jauw.org　　E-mail：jauw@jauw.org
発行人　鷲見（すみ）　八重子　　編集責任者　穐田　信子
発行日　2020年3月9日